

異なる賜物をもって一つに

ローマ人への手紙 12章 3-8節

はじめに

イエス様は、私たちが教会を建て上げるために、私たち一人ひとりに「賜物」を与えてくださっています。「賜物」とは、神様から与えられたギフトであり、特技や能力と言ってもよいかもしれません。イエス様は、私たち一人ひとりが与えられた賜物を生かして奉仕をし、教会を建て上げることを求めておられるのです。

1. 教会はキリストのからだ、信徒一人ひとりはその器官

今日の聖書箇所 4-5節で、パウロはこのように言っています。「**一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きをしてはいないように、大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人一人は互いに器官なのです。**」

パウロは、教会は「キリストのからだ」であり、イエス様を信じる私たち一人一人は、「キリストのからだ」の各器官であると言います。私たちは、イエス様を信じた時から「キリストのからだ」の一部とされているのです。私たちが意識する・しないに関わらず、私たちはイエス様を信じた時から、「キリストのからだ」の一部とされているのです。

聖餐式の時に、私たちは「キリストのからだ」であるパンを、分け与えられてそれを食べます。それは、私たち一人ひとりが「キリストのからだ」の一部であることを思い起こし、確認するためでもあります。私たちは、聖餐式でパンを食べているなら、確かに「キリストのからだ」の一部とされているのです。

からだは、各器官がそれぞれ働いてはじめて健康が保たれます。どれか一つの器官が働かなかつたら、病気になってしまいます。たとえどんな小さな器官であっても、です。教会も、信徒一人ひとりが奉仕をすることによって、はじめて健全に建て上げられます。教会の一部の人たちだけが奉仕をして、他の人は何も奉仕せずにお客さんのようにしているだけなら、それは健全な教会とは言えません。からだも一部の器官だけが働いて、他の器官が働いていなければ、それは完全に病気の状態です。

教会は、信徒全員が奉仕をして、はじめて健全に建て上げられるのです。教会で奉仕をしなくてよい人は、一人もいません。私たちは、「自分ひとりが奉仕をしなくても、教会には何の影響もない」と考えるはいけません。私たち一人一人は、イエス様を信じて聖餐に与り、確かに「キリストのからだ」の一部とされているのです。ですから、皆さんの一人でも奉仕をしなかつたら、教会は健全に建て上げられないし、「キリストのからだ」は病気になってしまうのです。ですから、どんなに小さな奉仕でも良いですから、一人ひとりが何か一

つでも奉仕を担うことが大切なのです。

私たちは、洗礼式や信仰告白式の時、また転入会式の時に、次のように問われます。「あなたは、聖霊の導きに信頼し、キリストのからだなる教会の一員にふさわしく生きることを決心しますか。あなたは、神の栄光を現わすために、最善を尽くして教会の礼拝を守り、奉仕し、教会を維持することを約束しますか」。そしてこれらの問いに、「約束します」と誓約して、はじめて教会員として受け入れられます。すべての教会員は、「キリストのからだ」の一部として、①礼拝を守り、②奉仕をし、③献金をするを神様と教会の前で誓約しているのです。私たちは、礼拝を守り、奉仕をし、献金することを通して、「キリストのからだ」を建て上げていくのです。その意味で、礼拝を守ること、奉仕をすること、献金をすることは、すべての教会員の責任と言えます。私たち一人ひとりが、この責任を神様と教会の前にしっかりと果たしていく時に、教会は健全に建て上げられていくのです。しかし逆に、私たち一人ひとりが、この責任に対して無責任になっていく時に、教会は病気になる、不健全になっていくのです。

2. 信徒一人一人は、キリストのからだを建て上げるために、異なる賜物を与えられている

6-8 節でパウロは、このように言っています。「私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので、それが預言であれば、その信仰に応じて預言し、奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教え、勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれを行いなさい」。

ここで言われていることの一つは、私たち一人ひとりにはイエス様から「賜物」を与えられているということです。私たち一人ひとりには、「キリストのからだ」を建て上げるために、必ず何かの「賜物」を与えられているのです。

ここには「預言」「奉仕」「教える」「勧め」「分け与える」「指導」「慈善」という七つの「賜物」が書かれています。これらの七つの「賜物」は、三つに分類できます。

「預言」は、神様の言葉を預かることです。「教える」は、聖書の教理を教えることです。また「勧め」は、慰めたり、励ましたりすることです。その意味で、「預言」「教える」「勧め」の賜物は、「牧師」が与えられているものです。

また「指導」は、信徒を指導することですが、これは「長老」に与えられている賜物です。

さらに「奉仕」は、「ディアコニア」という言葉で、人に仕えることです。「分け与える」は、自分の持っている物を困っている人のために献げることです。また「慈善」は、弱さを持っている人を助けることです。その意味で、「奉仕」「分け与える」「慈善」の賜物は、「執事」が与えられているものです。

これら七つの「賜物」は、特に「牧師」「長老」「執事」に与えられている賜物ですが、賜物は、これらの他にもたくさんあります。私たち一人ひとりには、必ず何かの能力や特技がイエス様から与えられているはずで、大切なのは、私たち一人ひとりが、自分が与えられている賜物は何かを見出して、その賜物を生かして奉仕をし、「キリストのからだ」の一部として教会を建て上げていくことです。

ここで言われていることのもう一つは、私たち一人ひとりにはイエス様から異なる「賜物」を与えられているということです。一人ひとりに与えられている賜物は、みな違うのです。なぜ違うのかというと、それは他の人の欠けている部分、足りない部分を補い合うためです。

私たち一人ひとりには、「賜物」と同時に「弱さ」も与えられています。つまり能力や特技があると同時に、苦手なこと不得意なこともあるのです。私たちは誰も完璧な人はいません。私たちは誰でも「強さ」と「弱さ」、「長所」と「短所」を持っています。私たちに与えられている賜物は、誰かの弱さを補うためです。そして他の人に与えられている賜物は、私たちの弱さを補うためです。私たちは自分の賜物を生かすことによって、他の人の弱さを補うことができるのです。そして私たちは、他の人の賜物によって、私たちの弱さを補ってもらえることができるのです。

「キリストのからだ」は、それぞれの賜物を生かして、互いに補い合い、支え合うことによって建て上げられていくのです。エペソ 4：16 には、このようにあります。「**キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つながり合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります**」。

私たち一人ひとりに与えられている賜物は、自分のために与えられているものではありません。他の人を支えるため、他の人を補うためです。つまり賜物を生かすことは、他の人を愛することになるのです。賜物を生かして奉仕することは、互いに愛し合うことになるのです。私たちは、人を愛することに気負う必要はないのかもしれませんが、私たちは、自分に与えられている賜物を生かすことが、結果的に誰かを愛することになるのです。

おわりに

3 節でパウロは、このように言っています。「**私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがた一人ひとりに言います。思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深く考えなさい**」。

私たちは、「賜物」や「奉仕」に関して、思い上がってはいけません。私たちが思い上がりやすいのは、第一に、弱い人を排除しようとすることです。イエス様は、イエス様を信じるすべての人を「キリストのからだ」の一部とし、必ず何かの「賜物」を分け与えてくださっています。ですからすべての教会員に与えられている賜物を見出し、その人の賜物が活かされるようにしなければなりません。その人の賜物が活かされ、奉仕することによってはじめて教会は健全に建て上げられるのです。弱い人を排除する教会は、「キリストのからだ」として病気であり、不健全です。

私たちが思い上がりやすい第二のことは、自分で何でもやってしまい、他の人の助けを受けないことです。私たちの中に完璧な人はいません。私たちはそれぞれ違った賜物と弱さが与えられ、自分の賜物が他の人の弱さを補うために与えられています。私たちは、他の人の賜物に活かされ、支えられ、助けられることも、イエス様の御心なのです。互いに補い合い、支え合い、愛のうちに「キリストのからだ」は建て上げられるのです。私たちは、誰かを支

えると同時に支えられることも大切であり、誰かを補うと同時に補われることも大切であり、誰かを愛すると同時に愛されることも大切なのです。そのように「一方通行」ではなく、「互いに」の関係の中で、教会は健全に建て上げられていくのです。

私たち一人ひとは、自分に与えられている「賜物」を見出すことが大切です。そのために、今自分にできることは何かを考えてみることです。どんな小さなことでも構いません。今自分にできることから始めてみましょう。一人ひとりが今自分にできることから少しずつ奉仕をしていく時に、教会は健全に動き出していくのです。一人ひとりが今自分にできることから少しずつ奉仕をしていく時に、結果的に誰かを助け、支え、補うことになるのです。そしてその奉仕が、誰かを愛することに繋がるのです。誰も賜物を与えられていない人は一人もいないし、誰も奉仕をしなくて良い人は一人もいません。私たち一人ひとは、「キリストのからだ」の一部だからです。

天におられる父なる神様。

私たちは、イエス様を信じた時から「キリストのからだ」の一部とされています。私たち一人ひとりには、あなたから違った賜物を与えられています。私たちは、与えられた賜物を土の中に埋めてしまうのではなく、しっかりと生かして奉仕をすることができますように。今の自分にもできる小さな奉仕から始め、その小さな奉仕が、誰かを支え、補い、助け、「キリストのからだ」を健全にしていくことができますように。私たち一人ひとりが決して思い上がることなく、慎み深く、互いに認め合い、愛し合うことができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。